

山の百名花

遠足会員

半田 隼子

【19】シラネアオイ

五月末、横須賀邦子さんのガイドで、函館山と恵山に登りました。函館山は夜景で有名ですが、登山道を歩く人は少なく、途中、津軽要塞の砲台跡も見学し、意外な発見が沢山ありました。

北海道はちょうど花の季節で、シラネアオイが見ごろでした。以前、宮下卓宏さんと一緒に佐渡に行った時のことを思い出しました。シラネアオイは、凛とした気品のある花で、台座のような大葉の上に薄青紫の大輪の花をのせ、登山者の方を向いて咲いています。そこそこに咲いている様子は、それは見事です。

一日目の函館山は快晴でしたが、翌日の恵山は、朝から生憎の雨でした。午後になって嵐になりました。登頂はしたものの、視界は悪く、道はぬかるんで一步も進めません。結局、「危ないから」というので、途中から車道を歩くことにしました。この雨で、せっかくのシラネアオイも花を閉じ、雨風を避けるように下を向いています。

飲まず食わずで歩くこと5時間、仕方がないので全員が公衆トイレに避難し、立ったままでおにぎりを食べました。麓に辿り着くとツツジ祭りの幟が見えましたが、もとより観光客は誰もいません。恵山温泉に入り、体も温まり、ようやく人心地がつかしました。



【20】チゴユリ

五月三日は快晴で、風もなく、横浜線の相原駅に降り立つと、富士山が見えました。ここからはバスで、町田市最高峰の草戸山に向かいます。「最高峰」は、登山家の憧れです。もつとも、草戸山は365メートルの低山ですが、それでも登頂した喜びを味

わうことができます。

大地沢青年センターでバスを降りると、町田市とは思えないほどの田園風景が広がっていました。近くを流れる小川には、おたまじゃくしが沢山いて、里山の雰囲気を楽しめます。草戸山に向かう途中、境川源流に立ち寄りました。「源流」という言葉にはいつも旅人のロマンを掻き立てる響きがあります。

山道を登り始めると、斜面にはチゴユリが群生していました。チゴユリは、その名が示す通り、小さい白いユリの花ですが、ユリのように立派ではなく、幼子のように愛らしい花で、見つけた時は、「そこにいたの？探していたのよ」と言いたいような愛しさを感じました。それほど、目立たない花なのでしょう。誰かが、草戸山は何もない山だと言っていました。

草戸山から高尾山までは縦走することができます。登山道を歩くこと4時間、高尾山口に降りてくると、さすがにゴールデン・ウィークということだけあって、すごい人です。この時期、草戸山の静けさはお勧めです。